

1.Tarantella

La Scala G.B.

第一タランテルラ

ラ・スカラ作曲

本邦では早くからマンドリン独奏曲として親しまれた曲であるが、この作者に就いては久しく杳として生死、消息が伝えられていなかった。

然し近年この作者のピアノ伴奏マンドリン独奏曲シルヴィエと題する子守唄に我が師カルロ・ムニエル教授（1859-1911）に感謝して捧げるの文字を見出し、ムニエル門下であることが判明した。

他の曲が全部ピアノ又はギター伴奏のマンドリンソロ曲として出版されているのに本曲のみ第二マンドリン、マンドラ、ギターの四重奏曲としても出版せられ各パートの動きが甚だ巧妙で面白いので加えた。

タランテルラは急速な 8 分の 6 拍子の激しいナポリ舞曲でタンボリンを手にして踊る。

大方のマンドリン曲の作曲家はタランテルラを書いているが、ワルツ、ポズカ、マズルカなどの舞曲よりタランテルラがマンドリンにより相応しいのではなからうか。

追加資料

遺稿

中野二郎編著

「マンドリン ロマンの薫り」より